

協会尼崎支部が参加する「アスベスト被害からいのちと健康を守る尼崎の会」は下記の通り第12回総会を開催します。ご参加お待ちしております。

アスベスト被害からいのちと健康を守る尼崎の会 第12回総会のご案内

＜国会報告＞ アスベスト問題と国の姿勢

堀内照文衆議院議員



2005年6月29日の、いわゆる「クボタショック」から12年目を迎えます。

労災型の大阪高裁判決は、労働者の生命よりも産業を優先する極めて不当なもので、最高裁判所第二小法廷も「上告棄却」という、憲法25条を無視した不当な決定を行いました。

アスベストによる被害は拡大の一途をたどっており、厚労省が発表した中皮腫死亡者数は年間1,400人にものぼり、尼崎市における中皮腫死亡者は、毎年30～40人と、全国的に突出した異常な犠牲者を数えます。尼崎では10倍以上のリスクです。アスベストを吸い込んで発症するまで20～50年の潜伏期間があることを考慮すれば、被害の本格的な発症はこれからです。

今回の総会では、第一部で「アスベスト問題と国の姿勢」と題して、堀内照文衆議院議員に国政の場での取り組みを報告していただき、1年間の闘いを振り返り、今後1年間の運動方針を確認します。多数のご参加をお願い致します。

記

2017年3月11日(土) 午後2時～

尼崎市立 小田公民館 大ホール

- ① 学習会「アスベスト問題と国の姿勢」 堀内照文衆議院議員
- ② 船越会長あいさつ
- ③ 一年間のまとめと運動方針の確認
- ④ 決算、予算の確認
- ⑤ 新役員体制の選任

* JR尼崎駅北側、ホテル・ホップインアミングの東側、キューズモール尼崎の駐車場が便利です

アスベスト被害からいのちと健康を守る尼崎の会

〒660-0802 尼崎市長洲中通2丁目1-3

TEL/FAX 06-6489-2600

兵庫県保険医協会

尼崎支部ニュース

384号

2017年2月25日付

〒660-0055 尼崎市稲葉元町2-11-10 八木クリニック
兵庫県保険医協会尼崎支部 TEL06-6417-6600 FAX06-6417-6011

第35回在宅医療研究会

褥瘡と栄養管理を学ぶ



(左) 司会の長谷川吉昭先生

(右) 左から池田弘毅先生、増田理恵先生、駒田裕子氏

協会地域医療部は2月18日、協会会議室で第35回在宅医療研究会を開催し、会員・スタッフら86人が参加した。

「在宅における褥瘡管理と血糖・栄養管理を考える」をテーマに、尼崎市の池田病院長の池田弘毅先生が「高齢者糖尿病と在宅医療～地域連携による取り組みについて～」を、皮膚科美川医院の増田理恵先生が「在宅における褥瘡の予防と治療連携」を、西武庫病院管理栄養士の駒田裕子氏が「病院から在宅へ切れ目のない栄養管理を目指す～療養型病院での栄養士の関わり～」をそれぞれ報告し、はせがわ内科の長谷川吉昭先生が司会を務めた。

詳細は、兵庫保険医新聞および次号支部ニュースにて掲載する予定。

尼崎市との意見交換会を実施



2時間にわたって懇談した

尼崎社会保障推進協議会(会長八木秀満支部長)では、県社保協の自治体キャラバンの一環として2月8日に尼崎市と意見交換会を実施し、尼崎社保協からは代表13人、市からは担当課長など14人が参加した。尼崎社保協から事前に66項目にわたる社会保障施策の要請書と、9項目にわたる4月から開始される介護予防・日常生活支援総合事業の要請書を提出した。

要請書への回答の中から、子育て支援や妊婦検診の充実、地域医療構想計画での入院ベッドの削減・再編の考え方、一部負担金や健診活動など高齢者施策、肺炎球菌ワクチン接種の年齢指定、生活保護受給者の資産調査、国の年金制度改悪への考え方、新総合事業の生活支援サポーター要請状況と財源について意見交換した。内容について一部紹介する。

【子育て支援への対応強化を】

こども医療費については、平成30年から未就学児のみ制限を撤廃することが国で決められ、それにより福祉医療費助成に対するペナルティ分も2000万円前後緩和される見込みとのこと。中学校卒業までの医療費無料化も含めた子育て支援への対応強化を求めた。

【入院ベッドの削減・再編で市民が不利にならないように】

兵庫県地域医療構想では2025年までに阪神南圏域で、急性期・慢性期病床が減床するものの回復期病床など全体としては390床増床とあり、役割の違う病床がある中で市民が不利益にならないよう求めた。(3面につづく)

(2面のつづき)

市は、在宅に帰るためのリハビリを行う回復期病床を増やし、地域の医療機関と連携し、民間病院には地域医療構想をふまえて編成してもらえるよう意見していくと回答した。また、尼崎総合医療センターにERができたことで救急患者の流れが変わったことにもふれ、民間病院との間で患者の流れに隔たりがあるのはよくないとし、民間・公立病院との協議の場を予定していると述べた。社保協は、入院患者の全体のバランスを把握し、その上で合理的な提案が必要と要望。市は今後調査して意見をまとめると述べた。

【高齢者施策・無料定額診療・肺炎球菌ワクチン接種などについて要望】

高齢者医療費の一部負担金減免については、国民健康保険法44条などで減免制度があるとしているが、実際の認定は難しいことや、市民に広報が行き届いてないことについて再度申し入れた。また、無料定額診療を行っている医療機関でも除外薬局の場合、薬は有料になることにふれ、公的な補助を求めた。肺炎球菌ワクチン接種については、肺炎による死亡率が高く、医療費も高額になることから、接種年齢となる市民への啓蒙と自己負担額の減額を求めた。

【新総合事業の生活支援サポーター要請状況や財源についても意見交換】

新総合事業については、新たに設置される生活支援サポーターを年間300人要請し全体で900人必要との考えを示した。財源は介護保険財政から拠出され、当面は現在の介護予防の範囲内で推移すると予想されているが、新規希望者が認定審査や新たに設置されるチェックリストで不利にならないよう求めた。

第518回幹事会だより

2月17日(金) 於 武庫之荘「カサレッチョ」

- 尼崎支部の会員数
2/16 現在 医科385人、歯科155人
- 医療をめぐる情勢と運動対策
当面の支部企画、医療情勢などについて意見交換した。
- 次回の幹事会
3月17日に開催。

支部ニュースへの投稿を募集しています

日常診療にかかわることや、主張、趣味のお話などお寄せ下さい。

TEL 078-393-1805 / FAX 078-393-1802 e-mail naga@doc-net.or.jp 担当; 長澤まで